



ふじさわ体協

発行・編集 藤沢市体育協会

〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1 藤沢市教育委員会スポーツ課内

URL <http://www.fujisawa-taikyo.org/>

オリンピックメダライヤーに寄せて

スポーツ課長 熊谷 正明



「飛躍そして未来へ」と、新たな第一歩を踏み出された藤沢市体育協会は、山田会長から提唱された「行動する体育協会」を旗印に、競技スポーツの振興はもとより、市民の体力づくりや青少年の健全育成など、様々な分野に於ける本市の行政施策にお力添えをいただいており、心より御礼申し上げます。

さて、本年は4年に一度のスポーツの祭典、北京オリンピックが開催される年であります。

教育委員会ではオリンピックイヤーにちなみ、(財)藤沢市スポーツ振興財団、藤沢市卓球協会の全面的なご協力をいただき、4月早々に北京オリンピック日本代表卓球女子チームを招聘し、秩父宮記念体育館において強化練習会、ふれあい交流会を開催しました。

卓球の愛ちゃんでお馴染みの福原愛選手をはじめ、平野早矢香選手や福岡春菜選手といった、日本のトッププレー



北京オリンピック日本代表 福原 愛選手

ヤーを目の前にして、連日訪れた多くの市民が、爽やかな感動を共有した催しとなりました。

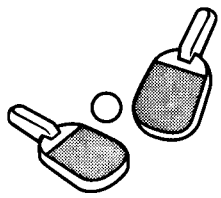
前回のアテネオリンピックで銅メダルを獲得された、本市出身の山田恵里さんや、本市ゆかりの選手として応援した中村礼子さんが、今回の北京オリンピックにも出場され、メダル獲得の期待が寄せられています。藤沢市を誇り、選んで強化合宿を行い、市民に爽やかな感動を与えてくれた日本代表卓球女子チームも合わせて、選手の活躍を市

民と共に応援したいと思っております。折しも文部科学省では「スポーツ振興基本計画」の改訂を行い、子供たちの体力低下傾向に歯止めをかけ、上昇傾向に転ずることを目指した施策を打ち出しました。

山本市政を継承された海老根新市長のマニフェストには、「子どもの体力向上対策の確立」が掲げられていますが、まさに国の動きを察知した適宜な施策提案であります。

現在見直しに取りかかった、本市スポーツ振興基本計画「ふじさわスポーツ元氣プラン」にも、ジュニア期のスポーツ振興を旨とした施策や、中学校運動部活動指導者の養成・確保などが示されており、教育委員会といたしましては、体育協会をはじめとする市内スポーツ関係団体、関係行政機関等と連携し、市長のマニフェスト実現に向け、新たな計画立てをすすめたいと考えているところですので。

元気に逞しく育った藤沢の子供たちが、オリンピックで活躍する選手達の姿に感動し、いつしかその子供たちの中から、オリンピックのメダリストが生まれるような、スポーツの街藤沢を実現したいものです。



仲間ありて

ハンドボール楽し



藤沢市ハンドボール協会

今年北京オリンピック・アジア予選のやり直しやハンドボールプレイヤ―宮崎大輔がトップアスリートとしてテレビにたびたび登場するなど今までになくハンドボールがマスコミに取り上げられることが多くなりました。

当協会はハンドボールを通じて、市民が心身とも健康で明るい社会生活を過ごせるよう二十年余りに前に発足しました。以来、市民ハンドボール大会を春季・秋季・冬季と年3回開催し、中学生から二十歳代のトッププレイヤー、さらにハンドボールを生涯スポーツとしている五十歳代のマスターズプレイヤーまで広い年齢層の市民が楽しく参加しています。

近年はジュニアクラス(小学生)にハンドボール教室を開催し、今年度は優勝を逸しましたが、当教室の子供たちのチーム「湘南台クラブ」は昨年まで神奈川県予選を3連覇して関東大会の常連となっていました。一生懸命努



県少年少女ハンドボール大会男女優勝

力する大切さ、その結果として勝つ喜び負ける悔しさを体験し健全な心身を育んでいます。

当協会はハンドボールを通じた市民間の交流にも力を入れています。隔年で実施している姉妹都市松本市との交流大会、毎年行う神奈川県内各市協会との交流大会、そして来年は台湾への海外遠征試合も予定しています。

ハンドボールは走り

跳び投げ身体接触

もある激しくも楽しいスポーツです。

小学生のお子様

居てハンドボール

をさせて見ようと

思う方は体験入部

や見学もできます。

練習は土日中心に

一日4時間で、最

初は運動量の多さ

に不慣れな子供達

もいますがすぐに驚くほど体力が付き

ます。

レベルは兎も角、仲間と一緒に大会

に参加したいという一般の方達も歓迎

します。

いずれも、左記までご連絡下さい。

藤沢市ハンドボール協会

会長 設楽孝治

090-8103-7299

ゴルフを生涯スポーツに!

藤沢市ゴルフ協会



藤沢市ゴルフ協会は、平成二年四月に設立され、翌年藤沢市体育協会に加盟申請をしました。まず、競技ゴルフとして、藤沢市のゴルフのチャンピオンを決定する藤沢市アマチュアゴルフ選手権大会、第二は、藤沢市民及び藤沢市に勤務地のある皆様が新ベリア方式で競う藤沢市民ゴルフ大会、三番目が、当協会の親睦を兼ねた新ベリアゴルフ競技会を毎年開催しています。

『ゴルフは、審判(レフェリー)のいない競技です。プレイヤー(競技者)自身が審判であり、よって、ゴルフがスポーツとして健全に発展するにはプレイヤーがルールとマナーを正しく見につけなければなりません。』競技ゴルフは、JGAの規則に則り行われ、アマチュア選手権大会がこれに該当します。市民ゴルフ大会と新ベリア競技会は、芙蓉カントリー倶楽部のローカルルールで競います。

種目協会 アラカルト

一年一回、協会員の皆さんのゴルフのスコアアップに繋がるようにゴルフスクールを開催しております。毎年応募者が増え続けてうれしい悲鳴を上げております。プロの時間の経過を忘れ

る熱心な指導が受けられます。

競技ゴルフに熱心に取り組んでいる協会員を対象に、「研修会」制度があり、年四回以上スクラッチ競技にて開催され、ポイントを競います。研修会員から神奈川県総合体育大会ゴルフ競技の代表選手が選考され、この大会で藤沢市は優勝、準優勝、三位等毎年上位の好成績を残しています。

四市三町のゴルフ協会が合同で、年一回「湘南地区ゴルフ大会」(競技ゴルフの部と親睦ゴルフの部)を開催し、競技ゴルフの上位者は県アマチュアゴルフ選手権大会の決勝、準決勝にシードされます。また、親睦ゴルフは、新ベリアのネットで順位を競います。

会員と市民の皆さんに藤沢市ゴルフ協会の情報を届ける会報とホームページがあります。会報は年一回発行され、一年間の当協会の活動を掲載しています。ホームページは大会及び競技会の応募方法を含む開催お知らせ及び成績、また、ルール改正等ゴルフ競技に関する諸事項を随時掲載しております。

再来年には創立二十周年を迎え、会長以下全役員一丸となつて益々協会の発展、充実するよう努力をして参ります。



藤沢市アマチュアゴルフ選手権

平成19年度収支決算

1. 収入の部 (単位 円)

項目	予算額	収入済額	増減
体協費	10,944,000	10,964,260	20,260
補助金及び交付金	3,599,000	3,612,000	13,000
委託料	5,036,000	5,036,000	0
賛助会費	1,500,000	1,505,000	5,000
分担金	544,000	544,000	0
繰越金	264,078	264,078	0
雑収入	922	3,182	2,260

2. 支出の部 (単位 円)

項目	予算額	支出済額	増減
運営費	10,944,000	10,883,060	60,940
事務局費	2,126,000	1,891,072	234,928
事業費	8,765,000	8,991,988	△226,988
積立金	10,000	0	10,000
予備費	43,000	0	43,000

収入済額 10,964,260 円
 支出済額 10,883,060 円
 差引額 81,200 円

平成20年度収支予算

1. 収入の部 (単位 円) 2. 支出の部 (単位 円)

項目	予算額
体協費	10,762,000
補助金及び交付金	3,599,000
委託料	5,036,000
賛助会費	1,500,000
分担金	544,000
繰越金	81,200
雑収入	1,800

項目	予算額
運営費	10,762,000
事務局費	1,900,000
事業費	8,765,000
積立金	10,000
予備費	87,000

《会長交代》

剣道連盟

新会長：幸野 實
 旧会長：伊澤 俊彦

山岳協会

新会長：木下 克介
 旧会長：尾崎 樹仙

バドミントン協会

新会長：市川 和広
 旧会長：井上 広男

- 評議員会、理事会、常任理事会、専門部会の開催
- 藤沢市体育協会の組織運営に関する研究
- 藤沢市委託事業の実施
- 第63回藤沢市民総合体育大会開催事業
- 第59回神奈川県総合体育大会藤沢市代表選手派遣事業
- スポーツ人の集い講演会の開催
- 加盟種目協会への補助金交付
- 第24回「スポーツ人の集い」開催
- 藤沢スポーツ賞（功労者、優秀選手、敢闘選手）の表彰及び各種表彰に関する事業
- 県外スポーツ交流推進の助成事業
- 賛助会員の拡充
- 種目協会会長の開催
- 広報紙の編集、発行に関する事業
- スポーツ関係団体との連携充実
- 市民総合体育大会の見直し検討の推進
- 体育協会とスポーツ課、スポーツ振興財団、藤沢市医師会との連携について
- 先進市体育協会への視察
- 下化推進

本年度藤沢市体育協会では次の事業を展開します。

シニアラグビー紹介

藤沢市ラグビーフットボール協会が今、推進しているシニアラグビーを紹介いたします。

少年野球や少年サッカー、そして少年ラグビー等はスポーツの底辺拡充と教育の一環として活動しているのは一般的であるが、陰に隠れた生涯スポーツもここにもあります。

「健康増進と生きがいの提供」シニアラグビーは国策とも合致し、社会にも大きな貢献ができるものです。生涯スポーツとしてのラグビーは、健康増進と生きがいの提供のほか、ラグビーの普及、発展、活性化に大きく寄与できる。40歳代、50歳代、60歳代又はそれ以上の年代はパンツのカラーで色分けされているように、年齢ごとに厳密に世代を分けて、同世代同士が対戦するゲームです。基本的には日本協会の競技規則を適用し、レフリングも双方に公平に判定します。もちろんスクラムもプッシュあり、双方が全力で最後までトライを狙い勝敗を決することを目指す。ゲームは、一方のチームだけが楽しむのではなくて、相手も楽しむ配慮を考えて最後までプレーします。

もちろんエンジョイラグビー、エンジョイクラブを目指しています。双方の選手、すべてのラグビーが楽しめるラグビーを目指します。生涯スポーツとして勝敗を目指さず安全にゲームを楽しみ、世代やスキルの差を越えて、交流・社会的な部分を重要視します。藤沢市内ではラグビープレーヤーを引退し、ジュニア育成やラグビーを越えて社会貢献に務めているラグビーが大勢います。社会の高齢化で増加の壮年・高齢世代(40歳以上)を対象としたラグビーの普及、機会提供、セカンドキャリア、現役引退後も、ラグビーを楽しめる機会の提供を藤沢市は推進しています。

こんなところにも生涯スポーツ

昨年から藤沢市ラグビー協会主催のシニアラグビー交流大会も近隣のシニアチーム(不惑チーム)に参加を呼びかけ、5チーム程のシニアチームが集まっていたきました。藤沢市シニア交流大会は春秋に開催しています。

これからもより安全に、初心者層の取り込みも図りながらラグビー競技者、ファン層の拡大を目指した「おとなのラグビースクール」でシニアラグビー活動を通して一層、高齢化社会に貢献できるラグビーの提案、普及を行います。将来、秋葉台球技場の芝のグラウンドでシニアラグビーの全国大会を夢見て、今後も益々頑張ります。

さて、今年の7月5日に県体育センターで行なわれた、藤沢市ラグビー協会主催の藤沢市春季シニア交流試合(藤沢・茅ヶ崎・大和・川崎等)にとんでもない選手が藤沢にやって来ました。

日本代表スタンドオフ(SO)として活躍し、今季限りで現役を引退した広瀬佳司氏の引退試合として特別参加となりました。トヨタ自動車ラグビー部に所属し、名キッカー選手としてラグビー界では全国的にファンが多く有名選手です。全日本の選手として国際試合に40試合も出場した偉大な選手です。今回の引退試合は藤沢市ラグビー協会が依頼され同志社ラグビー部OBチームとして参加することになり、広瀬氏(京産大卒)は仲間から誘われ特別参加となりました。広瀬氏の他、早稲田OBの堀越氏(元神戸製鋼)、中村氏(サントリー)、岩本氏(元トヨタ)等、元全日本選手も試合に出場しました。

当日はスポーツ新聞に広瀬選手引退試合の記事が既に掲載された関係でシニアチームと観客、ファン等、400名が集まり、明るく、楽しく、和やかな手作りシニア交流試合を兼ねた引退試合を武井理事長が企画しました。

最後のセレモニーでは記念写真の他、広瀬選手の挨拶「このような機会を与えて頂き、藤沢市ラグビー協会の皆様に感謝します。一生の思い出となりました。」と締め括りました。(ラグビー協会武井)



奮闘しているシニアの選手達

体協ホームページにアクセスしよう

藤沢市体育協会では藤沢市民がスポーツを愛する仲間の為にスポーツ関連の情報をホームページで発信や掲載等しています。日頃、スポーツを通じて健康管理や体力増進を図る市民の為に是非、アクセスお願い致します。またスポーツ団体の大会記録や大会日程等、掲載いたします。

【アクセス方法】

- 藤沢市体育協会ホームページのURLは
http://www.fujisawa-taikyo.org/
- 藤沢市のホームページ(http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/)からアクセスする場合は、
○藤沢市のホームページを開き、[市民の方へ]→[市民の方へのメニューご案内]→[学ぶ・楽しむ]→[スポーツ]→[団体紹介]体育協会リンクの順にアクセスしてください。

編集後記

混乱した聖火リレー、水着の開発問題等々、話題が多いオリンピック前だが、北京オリンピックの夏が平和で終わってほしい。世界平和に向けたスポーツの祭典はもうすぐです。私たちスポーツ仲間はスポーツ精神を通じて地域活性と世界平和を祈念する。そして子供たちにも感動を与えたい。バレーボール、ソフトボール、野球、卓球、柔道等々、私たち日本の仲間が世界と戦い、全力を尽くしてメダルを高く掲げた姿を次号の紙面で早く見たい。

編集委員(武井、広瀬)